

市立保育園配置計画に基づく 新金沢保育園の閉園（案）について

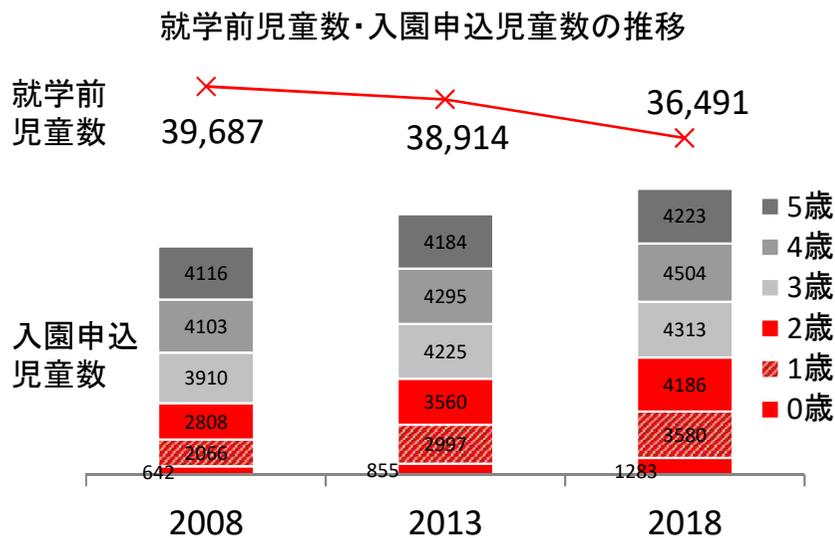
資料 4

なんのために行うの？ 《計画策定の背景、現状と課題》

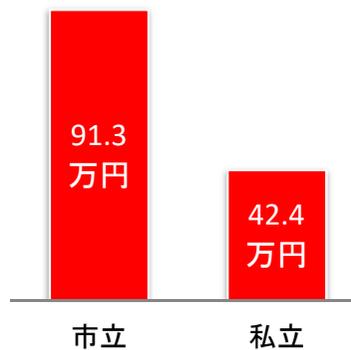
- 本市では、増え続ける保育ニーズに対応するため、民間の力を活用しながら、定員の拡充、サービスの拡充などに取り組んできました。
- 依然として、低年齢(0・1歳)児を中心に、年度途中の入園は厳しく、希望の保育園に入園できない方がいるほか、幼児教育・保育の無償化や就業形態の多様化等により、今後も保育ニーズの増加・多様化が予測されます。
- また、多くの市立保育園で老朽化等が進み、保育環境の改善が喫緊の課題となっています。
- これらの状況に適切かつ持続的に対応するため、これまで以上に民間の力を最大限活用し、市立保育園の適正配置を計画的に進めるため、平成30年10月に「市立保育園配置計画」を策定しました。

増え続ける保育ニーズに対応するため行います。
(児童数は年々減少している一方、保育ニーズは年々増加)

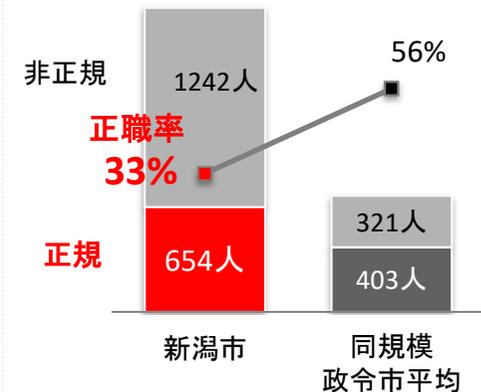
将来にわたり、適切な保育サービスを提供するため行います。
(市立保育園数が多く、市の財政負担大。正職率の低さも課題。)



保育園の年間運営費
市負担額
(園児1人当たり平均)



市立保育園
保育士数/正職率



老朽化が進む、市立保育園の環境を改善するため行います。

(多くの市立保育園で、老朽化や低年齢児の受入スペース、駐車場の不足などが課題)

市立保育園・認定こども園の耐用年数到達時期一覧(※1)

		R2-6	R7-11	R12-16	R17-
北	12	<u>太夫浜</u> 、 <u>越岡</u>	ちとせ、早通北、太田、三ツ森、若葉	かやま、すみれ、二葉	早通南、木崎
東	10	<u>山の下</u> 、 <u>大山</u> 、 <u>中野山</u> 、 <u>石山</u> 、 <u>第二中野山</u> 、 <u>東中野山</u>		山木戸、中山	大形、桃山
中央	12	<u>しなの</u> 、 <u>山湯</u>	入舟	白山、敷島、流作場、長嶺	八千代、万代(※2)、沼垂、鳥屋野、ロータリー
江南	13	<u>両川</u> 、 <u>ことぶき</u> 、 <u>曾野木</u> (※3)、 <u>第二曾野木</u> (※3)、 <u>大江山</u> 、 <u>亀田第一</u> 、 <u>亀田第二</u>	亀田第三	横越双葉、亀田第五	横越中央、横越小杉、亀田第四
秋葉	5	<u>新金沢</u>		新津東、小須戸	金津、矢代田
南	12	<u>新飯田</u>	臼井、古川、にししろね、あじほ	諏訪木、根岸、大通、月湯	白根、大鷲、小林
西	11	<u>内野</u> 、 <u>上五十嵐</u> 、 <u>坂井</u> 、 <u>坂井輪</u> 、 <u>小針</u>	大野、寺地、山田		興野、木場、黒崎なかよし
西蒲	11			岩室、巻、松野尾、七浦、なかのくち	和納、巻つくし、すわ、漆山東、漆山西、かきの実
全区	86	24施設	14施設	22施設	26施設

※1 耐用年数は、木造30年、鉄骨50年で整理。下線は、令和2年4月時点で耐用年数を超過する施設。(ただし、全施設耐震改修済)

※2 令和2年2月に、宮浦乳児と統合新設

※3 令和4年4月に、統合・民営化予定

何を行うの？ 《適正配置の方向性、市立保育園の役割》

◎**保育サービス充実のため、民営化を進める**こととし、全ての市立保育園について、今後の対応を検討し、これを進めます。

- 市立・私立の保育サービス(内容、基準、保育料など)は基本同じであり、市立から民間に移行することで、**将来にわたる持続的な対応**と、多様化する保育ニーズに対応した**柔軟なサービスの提供**が可能となります。

◎**市立保育園は、地域におけるセーフティネット機能を果たすほか、市全体の保育の質の向上に資する機能を強化した「基幹保育園」の整備を進めます。**

- 市立保育園の役割を真に市立でやるべきことに限定し、総数を減らすことにより削減した資源(財源、人員等)を、医療的ケア児等の受入や休日保育の実施など様々なサービスを行うための人材の確保や育成のほか、私立や認可外施設を含む域内の保育施設の監査や指導体制の強化などに生かすことで、市全体の保育サービスの質の向上や、子育て施策の充実につなげます。

最終的にどうなるの？ 《計画の目標、全体像》

■計画の目標

施設	概ね20年後には、現在の半数程度とします。 (86施設 ⇒ 45施設程度)
職員	施設の減少と併せて適正配置を進め、正職率について、同規模政令市と同等の50～60%とします。 (正職率 約3割 ⇒ 約5～6割)

早急に対応が必要な施設

1. 既に耐用年数を超過している	太夫浜、越岡、山の下、大山、中野山、石山、第二中野山、東中野山、しなの、山潟、両川、ことぶき、大江山、亀田第一、 新金沢 、新飯田、内野、上五十嵐、坂井、坂井輪、小針
2. 新すこやか未来アクションプラン(H27～H31)において既に実行予定としている	<u>石山</u> 、 <u>第二中野山</u> 、 <u>白山</u> 、 <u>敷島</u> 、 <u>長嶺</u> 、 <u>内野</u> 、 <u>上五十嵐</u>
3. 地域別実行計画において既に検討を開始している	かやま、すみれ、太田、若葉、 <u>坂井</u>
4. 利用児童数が20人未満(児童福祉法上の認可保育所定員の下限)	<u>新飯田</u>
5. 近隣に民間保育施設ができるため、受け入れの可能性はある	<u>山の下</u> 、 <u>古川</u>

※下線は、「1 既に耐用年数を超過している施設」にも該当

新金沢保育園の状況について

- 新金沢保育園については、昭和46年の建築から48年が経過するなど老朽化が進んでいるとともに、駐車場不足という課題を抱えている。
- 一方で、施設近隣をみると、認定こども園にじの新築(H31.4)、中新田保育園の増改築(R3.4)、満日保育園の増改築・こども園移行(R3.4)による定員増など、在園児の受入を一定数見込める状況にある。



以上の状況を踏まえ、今後閉園に向けた調整を進めていくこととした。

新金沢保育園の閉園について(案)

(1) 閉園にかかる基本的な考え方

- 閉園時期は、在園児への影響を最大限配慮し、公表年度から概ね3年後の年度末を目途とする。
【理由】3歳以上児の保育の継続性(卒園まで在籍可能)、3歳未満児の転園のしやすさに配慮
- 公表翌年度の新規受入は原則0~1歳児のみとし、翌々年度4月以降は原則停止する。
【理由】保育の継続性及び低年齢児の保育ニーズに配慮
- 公表後、転園等により、在園児が20人未満となった場合、在園児保護者の理解を得た上で、閉園を早める場合がある。
【理由】保育所の基準(20人以上)を満たさないため

(2) 公表から閉園までの基本スケジュール

R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
R3.4開設代替園等整備計画決定	公表(9月) ^{※1}	受入縮小 ^{※2}	受入停止 ^{※3}	閉園(3月)

※1 R3.4の入園募集情報にて、閉園予定時期、募集停止時期を公表

※2 新規入園については、原則、0~1歳児かつ在園児童の保育提供体制の範囲内でのみ受入

※3 原則、新規入園は受け付けない。

ただし、在園児のきょうだいのほか、通常の利用調整等の結果、他に受入先がないなど、特別に配慮すべき児童等については、柔軟に対応

(3) 閉園までの在園児数推移(見込み)

令和2年7月時点

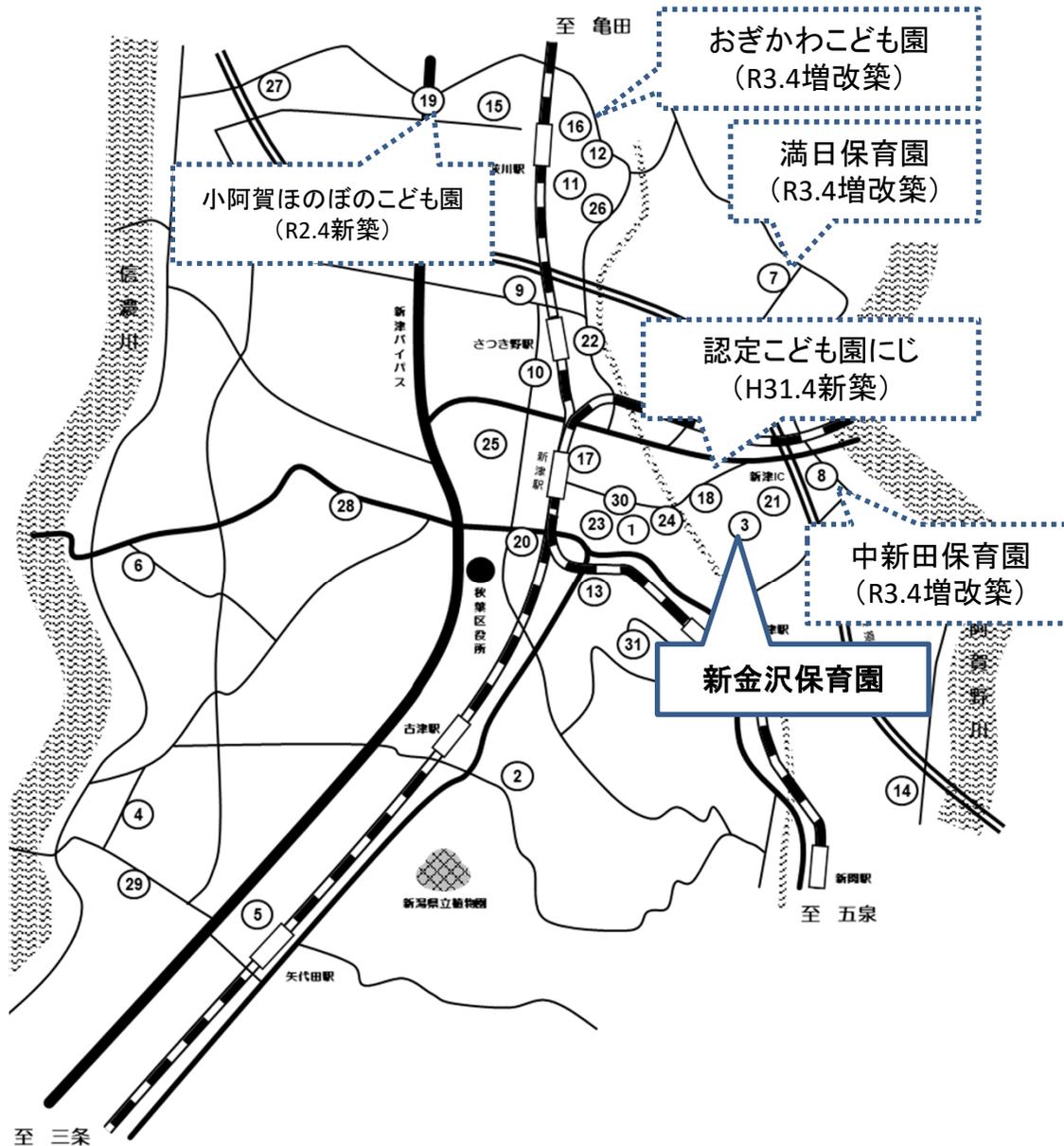
年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
人数	3	11	12	16	20	21	83

各年度在園児数見込み

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年4月 (転園)
	0歳(3人) →	1歳(3人) →	2歳(3人) →	3歳(3人)
0歳(3人) →	1歳(6人) →	2歳(6人) →	3歳(6人) →	4歳(6人)
1歳(11人) →	2歳(11人) →	3歳(11人) →	4歳(11人) →	5歳(11人)
2歳(12人) →	3歳(12人) →	4歳(12人) →	5歳(12人)	
3歳(16人) →	4歳(16人) →	5歳(16人)		
4歳(20人) →	5歳(20人)			
5歳(21人)				
83人	68人	48人	32人	20人

年度途中の入園及び転園は考慮していない
R3年度の0～1歳児の入園児数は見込み

(参考)秋葉区 教育・保育施設 位置図



1	新津東保育園	16	おぎかわこども園
2	金津保育園	17	にいつ愛慈こども園
3	新金沢保育園	18	認定こども園にし
4	小須戸保育園	19	小阿賀ほのぼのこども園
5	矢代田保育園	20	新津認定こども園 (さくらこども園)
6	小合西保育園	21	下越病院保育園
7	満日保育園	22	ニチイキッズさつき野駅前 保育園
8	中新田保育園	23	新津第一幼稚園
9	さつき野保育園	24	新津第二幼稚園
10	北上保育園	25	新津第三幼稚園
11	荻川ほのぼの保育園	26	結幼稚園
12	敬愛こども園	27	市之瀬幼稚園
13	認定こども園あおぞら	28	小合東幼稚園
14	認定こども園おひさま	29	小須戸幼稚園
15	にこにここども園	30	新津カトリック幼稚園
		31	認定こども園 Akiha森のようちえん